

平成23年度 附属図書館年度計画（抜粋）

平成23年3月14日
名古屋大学附属図書館

大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

K1-1. 22年度に引き続き、中央図書館、分館、部局図書室の相互の連携を保ちつつ、「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」担当教員の協力も仰ぎながら、留学生向けの英語基本図書のさらなる整備・充実を図る。

K1-2. 「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」担当教員と連携し、パスファインダー共同作成支援システムによりパスファインダー英語版作成を進める。
留学生の図書館利用支援のため、ガイドシートの英語化・中国語化を進める。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

K2-1. ガイドシートを充実し、学生にその利用を促進することにより、学生の自主学習の質を高める。

K2-2. 教員との連携によりライティングやプレゼンテーションの支援を引き続き行う。

K2-3. 教育学習支援の改善・強化検討WGがまとめた「全学の図書館・室の教育学習支援及び留学生支援の方策について」に基づき、教育学習支援の改善・強化を実施し、その評価を図書館サービス委員会に報告する。

K2-4. パスファインダー評価用アンケート調査結果に基づき、改善を行い、検証する。

(3) 学生の支援に関する目標

K3-1. 学内関係機関の協力を得てラーニング・コモンズのサポートスタッフへのトレーニングを充実し、学生へのサポートの強化を図る。

K3-2. 22年度の検討結果に基づき、蔵書整備アドバイザーへのフィードバックを実施する。

K4-1. 教員へオーダーメイド講習会を広く周知し、授業単位での依頼に対しては、教員との連絡を密にし、教員の意見を取り入れて内容の充実を図る。

K4-2. ラーニング・コモンズでの学生への支援を強化するとともに、初歩的な講習会を実施できるようにするため、サポートスタッフへのトレーニングを充実する。学生相談総合センターと連携し、ピア・サポートを引き続き実施する。

K4-3. 中央図書館学生用図書のリクエスト用紙による選書を部局図書室の協力を得ながら強化する。

K4-5. 英語版テンプレートを活用し、担当教員と協力して、パスファインダー英語版作成を進める。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準、成果及び実施体制等に関する目標

K5-1. (保留: 商議委員会の議論を踏まえて検討) 電子ジャーナル及びデータベースの持続的かつ効果的な整備のため、具体的な施策を引き続き検討する。

K5-4. 統合検索システムの実現に向けて、既存の目録データを変換し統合検索システムへ提供するツールを試作する。

K5-5. 準貴重書(神宮皇學館文庫の内2,000冊)・マイクロ資料などのコレクションについて、目録公開を順次進める。

K5-6. 紙資料と電子的資料の一元的かつシームレスな検索に向け、統合検索システムのプロトタイプ開発を行い、既存の統合検索システムと比較しつつ最適な提供方法を定める。

K5-7. 学内ILL (InterLibrary Loan) へのe-DDS (電子的な文献提供サービス) 導入の具体案を作成する。

K6-1. 電子情報資源の有効活用のための講習会を、部局図書室と連携して実施する。

K6-2. UPKI-Federation利用による認証サービスを使用するキャンパス外からの電子ジャーナル等の利用については、利用者の利便性を勘案し、本学で運用中の電子ジャーナルのリモートアクセスサービスEzproxyとの効果的な共存をはかる。

K7-1. 博士学位論文等の電子ファイル収集を効率化するため、アップローダーを開発し、試験運用を開始する。国立国会図書館から提供された過去の博士論文電子ファイルを登録する。

K7-2. H22年に準備した一覧表示をもとに、機関リポジトリから、紀要を電子ジャーナル的に見せる機能を搭載し、発信力を強化する。NIIの学術機関リポジトリ構築連携支援事業により、OJS(電子ジャーナル出版オープンソース・ソフトウェア)と機関リポジトリの連携システムを完成させる。

3 その他の目標

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

K8-1. 春季企画展を開催する。

秋季特別展を開催し、関連した講演会を開催する。

K8-2. 「図書館友の会」について、新たな企画により活動の活性化を図る。

K8-3. 図書館相互協力について、愛知県との実証実験の本実施に向けた検討を進める。また館種を超えた講演会・研修会の相互参加により、他大学、公立図書館等との連携を引き続き強化する。

K9-1. 分館と部局図書室の協力を得ながら、英語による基本的な図書(学習ツール・ライティング資料などを含む)の整備を継続的に進め、さらなる充実を図る。

K9-2. 留学生支援担当職員を配置し、館内サイン・掲示物・申請書類の英語化を引き続き進める。

学内の図書職員を対象とした窓口における英語での対応の研修を継続する。

K10. 国際的な図書館相互協力を推進するため、現在情報が少ないが、今後の利用増が見込まれるアジア地域の国のILL情報を調査し、文献入手が可能な体制を整備する。

K11. リニューアル後の図書館ウェブサイトの英語化を引き続き進める。

K12 具体の年度計画は、個別の各「中期目標」欄に記載した。

K13 具体の年度計画は、個別の各「中期目標」欄に記載した。

業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

K14. 商議員の2委員会の機能分担について検証する。

K15-1. 研究開発室の研究開発課題を整理し、それに適した教員に兼任室員を依頼する。

K15-2. 研究開発室と学内類縁機関との連携のあり方を検討し、専任教員の確保に努める。

K15-3. 研究開発室の機能と構成について検討を行い再構築する。

K16-1. (最適な職員配置を行うため、課・掛を跨いだ効率的な処理手順や人員配置について)引き続き検討を進める。

K16-2. 職員育成ポストの運用を継続する。またその評価を行い中間結果を報告する。

K16-3. 研究開発室と学内類縁機関との連携のあり方を検討する。

2 事務等の効率化・合理化に関する目標

K17-1. 図書系職員の専門的能力開発プログラムに基づき、次世代図書系職員の育成を引き続き推進する。

K17-2. 地区における人事交流について検討する。

K17-3. 引き続き図書系職員のための研修を計画的に実施する。

K18-1. 次期図書館システムの仕様作成に先立ち、次期システムの全体像を構想するための作業グループを立ち上げ、活動する。

参考:

平成24年度には、前年度の成果をもとに、次期システムへの具体的な要求をまとめ、文書化する。

平成25年度には、仕様策定に備えた各種資料収集を行う。

平成26年度初めには、仕様を確定し、年末にかけてシステム更新のための作業を行う。

K18-4. 22年度に実施した図書館業務の点検・見直し結果に基づき、さらに改善を進める。

財務内容の改善に関する目標

1 外部資金、寄附金その他の自己収入に関する目標

K19. 各種の助成を調査し、申請スケジュールをカレンダー化し、確実に申請を行う。

K20. 引き続き、国内外の事例を調査し、適用可能な方策を検討し、実施する。

2 経費の抑制に関する目標

K21-1. 電子ジャーナルに関しては、全国レベルのコンソーシアムに連携協力し、購入費抑制につなげる。

K21-2, K21-3. 他機関の資料調達方式の有効性・適用可能性を引き続き検討する。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

K22-1, K22-2. 昨年度に引き続き、不用図書を除却後、ホームカミングデイ「本のリユース市」で販売し、収益金により学生用図書の充実を図る。

K22-3. 保存書庫(情報基盤センター地下)の環境管理を検討する。

K22-4. 伊藤圭介文庫の翻刻データの電子化を完了する。小林文庫及び神宮皇学館文庫の「古典籍内容記述的データベース」への登録を進める。

K22-5. 全学の遡及入力対象資料の実態調査に基づき、部局図書室所蔵資料も含めた実行計画をたて、目録公開を進める。NIIの次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業に応募し、学内のマイクロ資料群の総合目録データベースへの登録を進め、神宮皇学館文庫の一部2,000冊を含む和古書5,000冊、漢籍2,500冊の総合目録データベースへの登録を進める。

K22-6. 「愛知県図書館定期便実証実験」による公共図書館への貸出について、貸出更新(期間延長)の取扱の広報を行うとともに、名古屋大学の情報の周知を図る。

K23-1. ガラス遮熱フィルム添付など、省エネ効果の高い営繕工事の経費を要求する。

K23-2. 5階事務スペースの一部を研究者向け利用スペースに改修する営繕工事の経費を要求する。

自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 自己点検・評価に関する目標

K24. 自己点検評価を実施する。

K25-1. 図書館需要を把握するため、利用者動態の分析を本格実施する。

K25-2. 24年度の外部評価実施に向けて、準備を開始する。

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

K26-1. 紀要等の学内刊行物ごとに独立したページを設け、閲覧性を向上させる。メタデータの標記ゆれを統制するルールをつくり、既存のデータを修正する。

K26-2. 博士学位論文の機関リポジトリへの登録・公開が制度化されたことを踏まえ、これを円滑に処理できるよう定型業務化をすすめる。ファイルの授受のためにアップローダー等を設ける。

K27. リニューアルした図書館ウェブサイトの英語化を進める。

その他業務運営に関する重要目標

1 施設・設備の整備等に関する目標

K28-1, K28-2. 「キャンパスマスタープラン2010」にそって附属図書館ストレージの実現に向けた要求を行う。また、ストレージ設置後のスペース活用について検討を進める。

K28-3. ラーニング・コモンズと分館、部局図書室の利用状況を検討した上で、全学の図書館・室の教育学習環境の改善案を作成する。

K29. 照明器具の省エネルギー化(Hf蛍光灯、LED照明化)をフロア毎など計画的に進めるため営繕工事などの要求を行う。

2 安全管理に関する目標

K30-1. 緊急時の消火設備等の電源確保について検討する。

K30-2. 附属図書館非常時行動マニュアルの見直しを進め実効性を高める。

K31-1. 名古屋大学地震防災訓練時に、中央図書館利用者の訓練参加を進める。

K31-2. 附属図書館非常時行動マニュアルの見直しを進め実効性を高めるとともに、防災意識を高める訓練を実施する。防災設備の職員研修会を実施する。

3 法令遵守に関する目標

K32. 附属図書館情報セキュリティガイドラインを完成させ、それを基にセキュリティ点検を行う。
セキュリティポリシー周知のため、職員への研修を行う。

K33. 個人情報の適切な取扱いのため、カウンター業務担当者にガイドラインの周知を図る。
利用制限を行っている資料、利用制限が必要と思われる資料の制限措置を「内規」に沿って決定する。